



東伊豆町

防災マップ

津波浸水想定区域図
土砂災害警戒区域図

防災マップの使い方

- 1 家族で、防災マップを見ながら自宅の周辺にどのような災害の危険性があるか確認しましょう。
- 2 災害が発生した時の避難所や連絡方法などについて、家族で確認しましょう。
- 3 自宅に一番近い避難所や高台等をマップで確認しましょう。
- 4 日頃の備えや災害時の心得を記載していますので、土砂や津波災害に対する備え、地震発生時の行動をよく読んで、災害に備えましょう。
- 5 いざという時に備え、防災マップはわかりやすいところに保管するとともに災害時には携行しましょう。

東伊豆町 平成27年5月

地震など防災全般にかかるお問い合わせは

東伊豆町役場 ☎ 0557-95-1100

土砂災害情報

気象庁が発表する大雨及び洪水警報・注意報

警報・注意報発表基準		発表の時期	発表の基準
注意報	大雨	大雨によって、災害が起こるおそれがある場合。	1時間雨量 50mm 土壌雨量指数基準：97
	洪水	洪水によって、災害が起こるおそれがある場合。	1時間雨量 50mm
警報	大雨	大雨によって、重大な災害が起こるおそれがある場合。	1時間雨量 80mm 土壌雨量指数基準：139
	洪水	洪水によって、重大な災害が起こるおそれがある場合。	1時間雨量 80mm
記録的短時間大雨情報			1時間雨量 110mm

【土壌雨量指数基準】：土壌雨量指数基準とは、降雨による土砂災害発生の危険性を示す指標で、土壌中に貯まっている雨量の量を示す指数のことです。

【記録的短時間大雨情報】：大雨警報発令時に、現在の降雨がその地域にとって災害の発生につながるような、稀にしか観測しない雨量であることをお知らせするために発表するものです。

気象庁（全国警報・注意報基準一覧表）より抜粋 平成22年5月現在

特別警報について

警報の発表基準をはるかに超える豪雨や大津波等が予想され、重大な災害の危険性が著しく高まっている場合、新たに「特別警報」を発表し、最大限の警戒を呼び掛けます。

特別警報が出た場合、お住まいの地域は数十年に一度しかないような非常に危険な状況にあります。周囲の状況や町から発表される避難指示・避難勧告などの情報に留意し、ただちに命を守るための行動をとってください。

土砂災害警戒情報

土砂災害から「命」を守るために！

土砂災害警戒情報とは？

降雨による土砂災害の危険が高まったときに市町村長が避難勧告等を発令する際の判断や、自主避難の参考となるよう、都道府県と気象庁が共同で発表している防災情報です。

発表されたらどうするの？

自主避難の判断をしてください。周囲のけが等の状況に注意し、普段と異なる状況に気がついた場合には、直ちに安全な場所に避難してください。

さらに、町からの避難勧告や避難指示等がなされた場合は、避難をお願いします。



土砂災害の種類と警戒区域

土砂災害警戒区域等について

○土砂災害の種類と前兆現象

こんな現象を見たら、早めに避難しましょう！

土石流とは

山腹、川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象。

- ・急に川の流れが濁り流木が混ざっている。
- ・山鳴りがする。
- ・雨が降り続けているのに川の水位が下がる。



地すべりとは

斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象。

- ・沢や井戸の水が濁る。
- ・地面にひび割れができる。
- ・斜面から水がふき出す。



がけ崩れとは

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちる現象。

- ・がけに割れ目が見える。
- ・がけから水がわき出ている。
- ・がけから小石がばらばらと落ちてくる。



※ここに紹介した現象が、土砂災害発生の前兆現象の全てではなく、また、これらの現象が見られなくても土砂災害が発生する場合があります。

○土砂災害警戒区域および土砂災害特別警戒区域とは

◎土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

急傾斜地の崩壊等、土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生じるおそれのある区域。

◎土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

急傾斜地の崩壊等、土砂災害が発生した場合に、建築物に破壊が生じ、住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれのある区域。

○土石流



○地すべり



○急傾斜地の崩壊



※東伊豆町には地すべりの土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域はありません。

土砂災害への心構え

避難のタイミングと行動

日頃の備えと早めの避難が大切です。

東伊豆町には土砂災害の危険がある箇所が数多くあります。大雨などにより突発的に発生する土砂災害から身を守るためには、日頃からの備え、情報の収集、早めの避難を心がけることが大切です。

●雨に注意していますか？

土砂災害の多くは雨から起こります。大雨や長雨で危険だと思ったら、早めに避難しましょう。1時間20ミリ以上、または降り始めてから100ミリ以上の降雨量になったら十分な注意が必要です。



●避難場所は決まっていますか？

普段から家族全員で、避難場所・避難する道順を決めておきましょう。災害が起きた時、家族が全員一緒にいるとは限りません。そんな時も、あらかじめ避難場所をみんなで決めておけば安心です。



●逃げ方を知っていますか？

土石流はスピードが速いため、流れを背にして逃げたのでは追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向とは、直角に逃げましょう。



命を守る最低限の行動

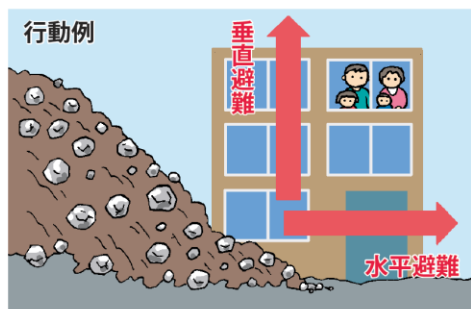
土砂災害から身を守るためには、**明るいうちの早めの避難**が重要です。

町からの避難指示・避難勧告がなくとも、土砂災害警戒情報の発表や前兆現象の確認など危険を感じたら、明るいうちの早めの避難を心がけてください。

危険が差し迫った状況では、屋外への避難行動は避け、**安全確保を第一**に考えてください。

行動例

- ・自宅や自宅近隣の頑丈な建物の2階以上へ移動（垂直避難）
- ・山側の部屋にいるのであれば、山から離れた部屋へ移動（水平避難）



その時どうする？地震発生時の行動

地震発生時の行動

地震発生!!

緊急地震速報に注意しましょう。

最大震度5弱以上が予測される場合、強い揺れが始まる数秒～数十秒前に、緊急地震速報がテレビ、ラジオ、携帯電話などで報じられることがあります。



1. まずわが身の安全を図る

なによりも大切なのは命。地震が起きたら、まず第一に身の安全を確保する。



2. 非常脱出口を確認する

とくに鉄筋コンクリートの建物内にいるときは、ドアを閉めたままだと建物がゆがみ、出入口が開かなくなることがある。



3. 火が出たら小さいうちの初期消火に努める

延焼火災を防ぐためにも小さいうちから火を消すことが大事。火事になった場合は、「火事だ!」と大声で叫び、ご近所にも協力を求め初期消火に努める。



4. 山がけ崩れ、津波に注意する

山間部や海岸地帯で揺れを感じたら、すぐに避難する。海岸にいる人はただちに海岸から離れて、高台や3階以上のビルへ避難する。



5. 防災情報を入手する

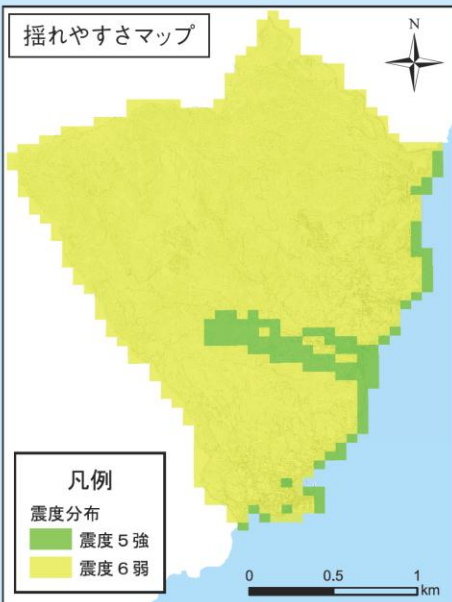
防災情報は防災無線、防災メール、ラジオ、テレビ、インターネットなどから正しい情報を入手する。



●避難するときは忘れずチェック!!

電気：電気器具のコードはコンセントから抜き、ブレーカーを切る。
電話：受話器がはずれていないか確認する。
ガス：ガス栓、器具栓をしめる。

揺れやすさマップ



平成25年6月27日に静岡県が公表した「静岡県第4次地震被害想定(第一次報告)」におけるレベル2の地震・津波の計算結果を示したもので、区画ごと(1区画は、震度分布では250×250m、津波浸水域は10×10m)に、その地域の主な傾向を表示しています。また、公開データには、地図作成上の誤差およびデータ作成上の誤差を含んでいます。

■地震の揺れと震度

凡例	震度階級	人の体感・行動	屋内の状況	屋外の状況
	5弱	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。	電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物の大半が倒れる。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのがわかる。道路に被害が生じることがある。
	5強	大半の人が、物につかまらないうちと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが増える。テレビが台から落ちることがある。固定していない家具が倒れることがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。据付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。自動車の運転が困難となり、停止する車もある。
	6弱	立っていることが困難になる。	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
	6強以上	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。

津波災害への心構え

大津波警報・津波警報・注意報

津波による災害の発生が予想される場合には、地震発生後**約3分**を目標に気象庁が「大津波警報」「津波警報」または「津波注意報」を発表します。

その後、「予想される津波の高さ」「津波の到達予想時刻」等の情報を発表します。

種類	発表基準	発表される津波の高さ		想定される被害
		数値での発表 (津波の高さ予想の区分)	巨大地震の 場合の発表	
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合。	10m超 (10m< 予想高さ)	巨大	木造家屋が全壊・流出し、人は津波による流れに巻き込まれます。 沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や津波避難タワー／ビルなど安全な場所へ避難してください。
		10m (5m< 予想高さ≤10m)		
		5m (3m< 予想高さ≤5m)		
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合。	3m (1m< 予想高さ≤3m)	高い	海拔の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。 沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台など安全な場所へ避難してください。
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。	1m (0.2m≤ 予想高さ≤1m)	(表記しない)	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、小型船舶が転覆します。 海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。

津波からの避難

小さな揺れだったり揺れを感じたりしなくても、大きな津波に襲われることがあります。

津波警報等が発表されたら速やかに高い場所へ避難し、解除されるまでは海岸に近づかないで下さい。

●地震が起きたら、まず避難！

強い地震、また弱い地震でも長い時間ゆっくりとした揺れの場合は、**ただちに安全な高い場所へ避難**しましょう！



●揺れがなくても襲ってくる！

地震を感じなくても、津波警報等が発表されたら**ただちに高い場所へ避難**しましょう！

●情報を待っている、逃げ遅れる！

テレビ・ラジオなどの情報を待っていると避難に間に合わないことがあるので、**まず安全な高い場所へ避難してから**情報確認するよう心がけましょう！



●浸水の深さが浅くても危険！

津波は、勢いのある水のかたまりが押し寄せてくる現象です。したがって、浸水の深さが浅くても、歩行が困難となります。流れが速い場合は、立っていることも困難になり、流されてしまう可能性もあります。

●津波警報等が解除されるまでは海岸に近づかない！

津波警報等が発表されたら、**すぐに高い場所を目指し、避難**してください。津波は短時間で襲ってくる場合もあります。また、繰り返し来襲し、第1波よりも第2波、第3波の方が高くなることもあります。



避難生活を乗り切るために

非常用持ち出し品・非常用備蓄品

避難する時に持ち出す「非常用持ち出し品」（必要最小限のもの）と、災害から復旧するまでの数日間を支える「非常用備蓄品」に分けて用意しておきましょう。

◎非常用持ち出し品

地震が起きてから避難生活に必要なものを探し始めたのでは素早く避難することができません。日頃から玄関などに準備しておきましょう。また、定期的に中身を点検しておきましょう。

◎懐中電灯など

- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 予備電池
- ライター・マッチ



◎非常食・水

- 飲料水
- 乾パン・クラッカー
アルファ米
- 缶詰・レトルト食品



◎医療品など

- 救急セット
- 常備薬
- お薬手帳
- マスク
- 生理用品



◎衣類

- 衣類
- ハンカチ・タオル
- 軍手・手袋
- 雨具



◎貴重品

- 現金（小銭も）
- 預貯金通帳
- 印鑑
- 保険証
- 免許証



◎その他

- 筆記用具
- ビニール袋
- 防災頭巾・ヘルメット
- 予備のめがね



準備できたものに を入れましょう。



- ・家族全員の目に付きやすい場所に置き、すぐに持ち出せるようリュックサックなどに入れて準備しておきましょう。
- ・家族構成等を考えて、必要な分だけ用意しましょう。欲張りすぎると、避難が大変になります。
- ・ラジオは、正しい情報を得るために必要です。予備の電池は多めに用意しておきましょう。



◎非常用備蓄品

南海トラフ巨大地震のような大規模災害では、被害が超広域にわたり、国や自治体の支援が遅れることが想定されます。家庭で自活するためにも、水、食料とも**7日以上**の備蓄をお願いします。

・1週間の目安（1人分）

飲料水



1日3リットル×7日
=21リットル

食料



3食×7日=21食

カセットコンロ・カセットボンベ

あたたかい食事を調理するため、用意しておくといでしょう。



ボンベ1本で1.5リットルのお湯が約10回つくれます。

・ローリングストック法（回転備蓄）

日常使う食材や非常用の食料品を、消費しながら備蓄していく方法。また、古いものから先に使うように収納を工夫すると上手に循環できます。



情報伝達・収集・問合せ

災害伝言ダイヤル「171」のかけ方

災害発生時（震度6弱以上の地震など）には、NTTの災害伝言ダイヤルサービスが稼働します。事前契約などは一切不要なので、家族や友人などが被災した場合の安否の確認や連絡などに活用できます。171番へダイヤルすると、ガイダンスが流れるので、それに従って伝言してください。

伝言の録音方法 **171 → 1** → 電話番号を市外局番からダイヤル **(xxx)xxx-xxxx** → **伝言を入れる**

ガイダンスが流れます 被災地の方は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の電話番号を（30秒以内）

伝言の再生方法 **171 → 2** → 市外局番からダイヤル **(xxx)xxx-xxxx** → **伝言を聞く**

ガイダンスが流れます 被災地の方は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の電話番号を

情報の入手先

気象庁（地震情報）	http://www.jma.go.jp/jp/quake/
内閣府（防災情報のページ）	http://www.bousai.go.jp/jishin/index.html
日本道路交通情報センター	http://www.jartic.or.jp/
東伊豆町ホームページ	http://www.town.higashiizu.shizuoka.jp/

連絡先（災害が起きそうなときや、発生したときには連絡を！）

お問い合わせは

東伊豆町役場 総務課	☎0557 - 95 - 6302
東伊豆町役場 建設産業課	☎0557 - 95 - 6303
※夜間の場合	☎0557 - 95 - 1100

情報伝達の経路

注意報・警報や避難勧告・避難指示等は、下図のような経路で住民のみなさんに伝達されます。災害の時はデマにまどわされず、正しい情報にもとづいて行動しましょう。

